



理穂さんに3日間＊密着レポート



ごみ・環境ビジョン21 理事 江川美穂子

ごみっと・SUNに15年以上に渡って「ドイツ便り」を寄稿してくださっている田口理穂さん。

ごみかんとのお出会いは、絵本『ゴミのへらしかた』（2000年星の環会）の出版を通して、星の環会社長・栗山佑子さんの“ドイツを視察しよう！”というお誘いからでした。このドイツ視察旅行のガイドをしてくれたのが、当時ハノーファー大学院生だった理穂さんだったのです。

2000年夏、日本からの5名のメンバーと理穂さんの6名で、ごみ問題を中心としてドイツの環境政策や環境教育、ハノーファー万博などを視察し、私たちはここで学んだことをまとめて『ゴミのへらしかた ドイツに学ぶ』を刊行し、理穂さんは私たちのわがままから「ごみかん・ドイツ特派員」に！

理穂さんはその後社会人になり、結婚・出産・子育てと平行して、日本からの視察コーディネーター、裁判所認定独日通訳、ジャーナリストとして活躍中です。特に2011年の東京電力福島第一原発事故以降は『市民がつくった電力会社 シェーナウの草の根エネルギー革命』（2012年大月書店）を出版し、精力的にドイツの取り組みを発信、日本各地の市民発電所の活動の後押しに繋がりました。

この夏、8月20日に出版された新刊『なぜドイツはエネルギーシフトが進むのか』（学芸出版）のPRを兼ねて帰国した理穂さんですが、8/20～22に連日、東京でイベントが開催されました。私は3日間のイベントに同行し、楽しいひと時をともに過ごしましたので、レポートにまとめました。

8/20 出版記念 <<鎌仲ひとみ×田口理穂トークショー>> “エネルギーシフトを始めよう” @御茶ノ水



会場のブックカフェ「エスパスビブリア」は、アテネフランセや山の上ホテルに近い、雰囲気のあるイベントスペースでした。

鎌仲ひとみさんの新作の映画「小さき声のカノン」のドイツ上映を理穂さんがコーディネートしたことから、今回の対談につながりました。

【田口】ドイツではなぜ脱原発を決められたかということ、市民の反対が大きかった。推進側が選挙で当選しない。日本では世論と反して推進側が当選するのが不思議。

【鎌仲】民主主義とエネルギー政策は表裏一体。かつてのナチス政権への反省で、自分の頭で考え、上から言われたことを疑ってみるドイツ人に対して、日本人は疑わず刷り込まれてしまう。声を出し意思表示する市民になること。

【鎌仲】日本は風力や太陽光エネルギーへの攻撃がすごい。問題はあっても、低エネルギー社会へ、よりリスクの低いものへのプロセスの中の一つだ。いずれも核のごみよりまし。ネガティブスパイラルからポジティブスパイラルへ進もう。

【田口】ドイツは学校は午前で終わり、子どもには自由がある。宿題もない。大人は有給休暇を消化するのが当たり前。残業もあまりない。趣味や活動の時間がある。

国民の総意で脱原発（2020年にゼロ）を宣言し、再生可能エネルギーが消費電力量の約3割を占めるまでに普及しているドイツ。理穂さんは、その最前線の取り組みを紹介しながら、意思表示をする市民になること、教育が大事、と強調していました。

8/21 ごみかん主催 <<理穂さんを囲んで>> @国分寺市民活動センター

トークショーでは少し緊張気味だった理穂さんも、古巣に戻ったようなリラックスした雰囲気、ドイツのエネルギーやごみについてスライドを映しながら説明し、参加者と交流しました。

例えば資源として出す容器包装のプラスチック。日本ではきれいに洗って出しますが、ドイツは汚れたまま出します。「それはどうして?」「今も集めているのはDSD社?」。矢継ぎ早に「ドイツのごみ情報」について質問する“ごみかん人々”。

で、今後のRihoのドイツ便りで、ハノーファーのごみ分別や処理についての詳細を改めて書いてほしいと、お願いしました。

この日、ドイツ風に使い捨ての食器などを使わないでお茶やお菓子を出すには、会場に設備がないため、理事たちが自宅からグラスやお茶のポットなど大荷物を運びました。



8/22 多摩循環型エネルギー協会主催 <<エネ・カフェ>> @多摩市

再生可能エネルギーの普及啓発活動を行なっている多摩エネ協(多摩循環型エネルギー協会)は、市民による電力会社である多摩電力合同会社を立ち上げ、現在13ヶ所の市民発電所(太陽光)を設置しています。第1号発電所が発電を始めた3年前に、理穂さんのトークも交えて「シェーナウの会」を開催しました。

今回は、理穂さんの友人でもあるオーストリア出身のフランツ・レンツさんも同席され、国民投票によって脱原発を決め、新設の原子炉も稼働させていないオーストリアの話や、ドイツの省エネ住宅などの取り組みを紹介してもらいました。

終了後の居酒屋での暑気払いも深夜まで大いに盛り上がり、理穂さんの3日間の東京でのイベントがすべて終了! 翌日には、明君の待つ長野の実家へ向かいました。理穂さん、お疲れさまでした~!!



田口理穂さんの新刊『なぜドイツではエネルギーシフトが進むのか』(学芸出版)のチラシを同封しました。
インターネットで注文される場合は、16pをお読みください。

